

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 児童生徒一人一人の学習上の困難さに応じた「個別の配慮」

通常の学級では、発達障害を含む障害のある児童生徒が在籍している可能性があることを前提とし、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援を行うことが重要です。通常の学級における授業では、ユニバーサルデザインの視点での「指導の工夫」を行った上で、必要に応じて「個別の配慮」を行うことが大切です。

通常の学級における「個別の配慮」

「個別の配慮」は、合理的配慮を具体化した支援の一つです。合理的配慮の提供とは、児童生徒自身の努力だけでは解決できない課題に対して、その状態を解消・軽減し、その授業の本来のねらいに応じた学習活動に、ほかの児童生徒と同様に無理なく参加するための配慮や支援を行うことです。「個別の配慮」を実施するに当たって、児童生徒や保護者と一緒に配慮や支援の方法を検討・決定していくことが重要です。また、「個別の配慮」を個別の教育支援計画等に示してその効果を評価し、改善を図りながら引き継いでいくことが大切です。

ステップ1 困難さへの気づきと背景の見取り

困っている状況に気づき、困難さの背景について考えながら個別の配慮を検討します。

全部ノートに写すのが大変だ。間に合わないよ。

板書を書き写すことに時間が掛かっているな。(学級担任)

文字の形を捉えることが難しいのではないですか。

書き写す内容を記憶することも苦手なようですね。

ステップ2 指導の工夫の意図を明確にした個別の配慮の実施

個別の配慮を実施し、効果を見取ります。

- ①細部に注目できるよう、画数の多い漢字は拡大してホワイトボードに書く。(特別支援教育支援員)
- ②時間内に書くことができるよう、書き写す部分を調整して指示する。(担任)

ステップ3 子どもの学びやすさの確認

本人と学級担任等が効果を振り返り、改善していきます。

漢字は見やすくなりましたが、書き終わる前に授業が進んでしまいます。

〈教職員等による振り返りの例〉○成果 ●課題
参加者：学級担任、管理職、コーディネーター、支援員など
○書く意欲が高まってきた。
●支援員がホワイトボードに書いて示すまで待つ時間がある。
●書き写す部分を調整するだけではまだ時間が掛かる。


ステップ4 個別の配慮の改善・引継ぎ

本人及び保護者と学級担任が共に評価を行い、次年度に引き継ぎます。


<p>ICT 個別の配慮①の改善</p> <p>漢字等を拡大して見ることができるよう、支援員がタブレット端末で板書を撮影する。</p>	<p>個別の配慮②の改善</p> <p>書き写す量が多い場合は、大事なこと(キーワード)のみを書くシートを作成する。</p>	<p>重要 自己理解</p> <p>児童生徒が自分の得意・不得意な活動や自分にとって必要な支援を知ることで、自己理解が深まります。学習や生活がしやすくなるよう、自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲に支援を求めたりする力を育てていくことが必要です。</p>
<p>タブレット端末を使うと見たいところを大きくできるので書き写しやすいです。</p>	<p>自分で文字の大きさを調整できるから、画数の多い漢字の形が見やすくなりますね。</p>	<p>重要 困難さの解消・軽減の実感</p> <p>児童生徒及び保護者と学級担任が共に個別の配慮のよさを実感しながら、配慮の内容を確認していくこと(合意形成)が大切です。教師によるこのような関わりが児童生徒にとって大きな安心感となります。</p>
<p>慣れてきたら自分で撮ってもいいですか。ほかの授業でもやってみたいです。</p>	<p>いいですよ。先生方にも話しておきます。必要なときに自分から先生方に伝えられるといいですね。</p>	
<p>書き写す際の負担が減って、先生の話に集中できるようになったので、本人は喜んでいます。どちらの配慮も次年度も続けてほしいです。(保護者)</p>		

〈参考情報〉 合理的配慮の説明や実施の流れ、実践事例等が掲載されています。

特別支援教育リーフVol. 5
このように考えよう、合理的配慮(国立特別支援教育総合研究所)



インクルーシブ教育システム構築支援データベース(国立特別支援教育総合研究所)



障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～(文部科学省)

